

やっぱりおうちが いいな

～地震後トラウマで家に帰れない子どもたちのために～



熊本地震の後に、建物の揺れや物が落ちてきたことによる
トラウマで家が怖くて帰れなくなった子どもたちがいます。
そのような子どもたちのためにこの絵本を作りました。
おうちの方の参考になれば幸いです。

熊本市
子ども発達支援センター

木村重美、細郷幸美 作
川嶋久美 絵

ちきゅうさんが、かぜをひいたよ。

「ハックシュン!!」



「わあ～！ じしんだー！」

あきらくんは、おねえちゃんのかみちゃん、
おとうさん、おかあさんといっしょに、
そとに にげました。





みんなで、ひなんじょにいきました。
おおくのひとが、がっこうの
たいいくかんにいきました。

あきらくんは、いつものようすとちがう
たいいくかんには、はいれませんでした。
おかあさんが、むりにいれようとすると、
おおなきを してしまいました。

しかたなく、うちのくるまのなかで
ねることになりました。



ひなんじよで ごはんをもらい、
くるまのなかですごすせいかつが
2しゅうかん つづきました。
じんも おちついてきたので
いえにかえることに
なりました。



いえのげんかんまでいくと、
あきらくんは、
じんのことを おもいだして、
なかにはいることができません。

「おうちは こわいよー。」

とおかあさんにしがみついて、
なくばかりです。



おねえちゃんのくみちゃんは、
ゆうきをふりしぼって、いえのなかには
いっていきました。
いつもより、ちらかっていますが
おとうさんがまえて
かたづけてくれたので、
ほとんどもどおりでした。

くみちゃんは、
くまモンのぬいぐるみをもってきて、
「ほら、くまモンも いえでまってるよ。」
と あきらくんにみせてくれました。



あきらくんも
ゆうきをだして、
いっぽ、いっぽ、
いえのなかには
いっていきました。



すると、くまモン、
でんしゃ、ミニカー
などのおもちゃが
いっせいにはくしゅで
むかえてくれました。



あきらくんは、
すぐにそのおもちゃで、
あそびだしました。

「おうち、やっぱり
たのしいな。」



そのひのよるになりました。

あきらくんは、よるになると、
じしんをおもいだしてしんぱいになり、
やっぱりないてしまいます。
おとうさんは、おちてきそうなものを
かたづけて あんしんできるスペースを
つくってくれました。





おかあさんは、

「またじしんがおきたら、ここにかくれてね。
みんなでにげるから だいじょうぶだよ。」

とぎゅっと だきしめてくれました。

そのひは、
おとうさん、おかあさん、
くみちゃん、あきらくん、
みんなでまくらをならべて、
いっしょにねむりました。



つぎのひ、

「やっぱり、おうちがいいな。」

と あきらくんはつぶやきました。



ときどき、ちきゅうさんは
くしゃみをしています。
あきらくんはいいました。

「ちきゅうさん、
はやくよくなってね。」



～ ご家族へ ～

子どもたちは、また家で地震が起きるのではないかと心配して、家に戻れない場合があります。以下のことに気をつけましょう。

- 1、なるべく、もとの生活リズムに戻してください。
慣れているおもちゃなど近くに置いておくとよいかもしれません。
- 2、子どもが安心できるスペースをつくってください。
例えば、物が倒れてきたり、落ちてこないようなスペースをつくってください。
- 3、再度地震があった場合、どう行動するのかの見通しを伝えることも大切です。まずここに逃げて、次はどうするのかを知らせた上で、周りの大人がしっかり守ってくれるから大丈夫という安心感を与えてあげてください。

注) 家に戻る場合は安全性を確認してから帰るようにしてください。



